



学校だより 第4号

菩

平成27年7月

提

高岡市立東五位小学校

樹



生徒指導で気を付けたい“こそあど言葉”

校長 吉田 茂

7月に入り、安全感謝の集い、防犯教室等が開催されました。子供たちの安全・安心のため、日々見守っていただいている東五位地域安全協議会の皆様のご尽力に感謝するとともに、日本のどこかで子供たちの安全・安心を脅かす事件が次々に起きている現実に暗澹とした思いをしました。

ところで、今年の2月、川崎市の多摩川河川敷で痛ましい事件が発生したことは、皆さんの記憶にまだ新しいことではないでしょうか。その事件で最も深刻に受け止めなければならないことは、被害者の生徒が追い込まれていく状況を、大人が誰一人として把握しきれていなかったということです。

事件・事故が起きないようにすることは最も大事ですが、何かが起きた時は、初期の段階で危機意識をもって対応することが本当に重要だと改めて感じた次第です。

そこで、国語の指示語を表す“こそあど言葉”（これ・それ・あれ・どれ）をもじって、生徒指導で気を付けたい“こそあど言葉”にまとめてみました。

こ ● 「これくらい、いいだろう。だいじょうぶだろう…。」(見逃し)

ちょっとした悪い芽は出ていると分かっているはずですが、注意・指導するほどのことでもないと言いつけ、見逃してしまおう。後になって、あのとき、兆候が出ていたのに何も対処しなかったと悔やまれる判断ミスです。

そ ● 「そんなこと、関係ないよ。たいしたことはない…。」(軽視)

「これくらい…」と似ていますが、自分が見つけたことが、大きなことに関わるとは認識せず、問題として取り上げない。自分だけで抱え込み他の誰にも伝えない。しかし、そのことが大きな引き金や転換点だったと、後から分かって悔やまれるケースです。

あ ● 「あとでやるよ。すぐにしなくても…。」(先延ばし)

問題を見つけたその場ですぐに行わないと、効果が薄れます。問題にあまり関わりたくないという消極さや面倒だという思いが、状況を一気に悪化させてしまうことがよくあります。

ど ● 「どうせ、やってもだめだ。言っても無駄だ…。」(放棄)

言っても相手の心に響かない、徒労に終わることをしたくないと、最初から無力感に陥っており、時間が過ぎるのをじっと待つタイプです。

子供たちを見守る私たち大人は、上記の“こそあど言葉”に陥ることなく、アンテナを高くして情報を共有し、問題の早期発見・対応に努めなければなりません。そのことが、未来ある子供たちの健全育成の鍵になると考えます。

かぶとやま大騒動[演劇鑑賞会]

6月25日、「劇団風の子 中部」による劇『かぶとやま大騒動』が上演されました。迫力ある演技や場面の展開に子供たちは劇の世界に引き込まれ、とても充実した楽しい時間を過ごすことができました。

交通安全功労者表彰

6月29日、東五位小学校が高岡市より交通安全功労者表彰を受けました。この表彰に恥じぬよう、交通少年団を中心に日々の交通安全に気を付けたり、自分ができる方法で地域に交通安全を呼びかけたりしていきたいと思えます。